

■良弁 僧。「華嚴經」を研究して、大仏造立の宗教的中核となり、開眼の後、初代東大寺別当に任ぜられ、開山に。

ろうべん
浄御原令・・・689＝ 生。百済系渡来人の後裔。相模国漆部氏とも近江国百済氏ともいう。

不比等確立・・・698＝ 9歳：

持統天皇没・・・702＝13歳：

元明天皇即位 707＝18歳：

平城京遷都・・・710＝21歳：

光明子入内・・・716＝27歳：

藤原不比等没 720＝31歳：

義淵に師事して法相宗を学び、

聖武天皇即位 724＝35歳：仏教を重んじる聖武天皇が即位すると、
・・・725＝36歳：

渤海交流始・・・728＝39歳：*聖武天皇の皇太子基親王の冥福を祈る金鐘山房の智行僧の一人に選ばれ、
長屋王の変・・・729＝40歳：

遣唐使9・・・732＝43歳：僧位四位十三階の制定を願う。
733＝44歳：絹索院を建立し、毘盧舎那仏の大像を建立して、金鐘寺とする。
・・・734＝45歳：

藤原四卿没・・・737＝48歳：

藤原広嗣の乱 740＝51歳：大安寺審詳(祥)を講師として「華嚴經」の研究講義を始め、活躍が始まる。
741＝52歳：*「正倉院文書」に良弁の名が初めて登場。国分寺建立詔が出ると、この金鐘寺が大和金光明寺となる。その
中心には良弁がいたと思われ、大徳の尊号でよばれ、
大仏造立の詔 743＝54歳：この年までに上座として実権を掌握している。毘盧舎那仏金銅像(大仏)造立の詔が出された。
・・・744＝ 55歳：「華嚴經」の研究所である知識華嚴別供を設ける。このように次第に充実していく同寺には、審祥・嚴智・
平撰・慈訓・性泰・智爆らのすぐれた僧が集められる。彼らはいずれも良弁を中心として、金光明寺・東
大寺華嚴教学の興隆に貢献し、大仏造願に深い関係をもつことになる。
行基初大僧正 745＝56歳：「金光明最勝王經」の講説を行って仏教界を先導し、盧舎那大仏造像に当たっては、造東大寺司次官佐伯今
毛人、行基などととも聖武天皇を助け、

751＝62歳：律師を経ることなく少僧都に任命される。構成員からみて、僧綱内で圧倒的な力を発揮したと思われる。
大仏開眼・・・752＝63歳：*大仏開眼ののち、初代の東大寺別当(最高責任者)に任ぜられた。

鑑真来日・・・754＝65歳：唐僧鑑真一行が東大寺に詣でたときこれを迎え、

聖武天皇没・・・756＝67歳：聖武上皇の死去に当たっては生前看病の功により、また仏教界の領袖として大僧都となった。
以後、藤原朝臣仲麻呂と深い関係をもつ慈訓とともに、僧綱の意見を国家の仏教政策のなかに反映させて
行き、造東大寺司にも発言力をもつにいたる。良弁の配下にあつて活躍した僧には、平栄や実忠がおり、東
大寺の修造や荘園経営に力を発揮した。

光明皇后没・・・760＝71歳：慈訓、法進らとともに僧階の改正を上奏して教学の振興を図り、
・・・761＝72歳：
新羅征討計画 762＝73歳：石山寺造営にも努力している。

764＝75歳：大僧正の極官に補せられた。藤原仲麻呂の乱勃発の時で、昇進もこれに関係があると考えられる。
道鏡政権下では、その活躍のあとをたどることは困難である。

宇佐八幡神託 769＝80歳：
称徳天皇没・・・770＝81歳：
山部立太子・・・773＝84歳：*僧正在任のまま、没した。

「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、